2022年度決算および
2023年度業績見通し 説明資料

星光ＰＭＣ株式会社（東証プライム 4963）
2023年2月28日

本日のサマリー

事業環境　**想定外の事業環境変化**が生じた

国産ナフサ高騰

4.2万円/kL(2021年平均)

↓

7.3万円/kL(2022年平均)

急激な円安

110円/ドル(2021年平均)

↓

132円/ドル(2022年平均)

実質GDP減速

日本2.2, 中国8.1, 米国5.9, ﾕｰﾛ圏5.3

↓

日本1.2, 中国2.7, 米国1.9, ﾕｰﾛ圏3.3

(前年からの変化率、上が2021年、下が2022年。出典：世界銀行)

業績概要　**前例のない製品値上げ**も計画未達。**中計に沿った取組み**は**進展**

売上高　324 億円
(対前年 ＋4.5%)

営業利益　18.8 億円
(対前年 ▲34.3%)

期初予想比

売上高
▲10.4億円(▲3.1%)

営業利益
▲1.6億円(▲7.6%)

環境変化への対応	・強力な価格転嫁推進　・省エネ等合理化の徹底
中計達成に向けた取組み	・ﾍﾞﾄﾅﾑ新工場稼働 ・KJｹﾐｶﾙｽﾞの設備増強
将来への種まき	・ﾏﾘﾝﾅﾉﾌｧｲﾊﾞｰ社のｸﾞﾙｰﾌﾟ入り

今期見通し　**売上高・営業利益増**、キャッシュを生む力を約**2割増**へ

売上高　352 億円
(対前年 ＋8.8%)

営業利益　20.1 億円
(対前年 ＋6.7%)

EBITDA*　39.3 億円
(対前年 ＋18.4%)

位置づけ

収益力回復への第一歩の年

環境変化への対応	・更なる価格転嫁と合理化の推進
中計達成に向けた取組み／将来への種まき	・東南ｱｼﾞｱ/中国への拡販(ﾍﾞﾄﾅﾑ工場を基点に) ・製品ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ変革 ・環境戦略製品拡販 } ﾊﾞｲｵﾌｨﾙﾑｺﾝﾄﾛｰﾙ剤, CNF, SEIKOAT, etc.

* 営業利益＋減価償却費

目次

Ⅰ 2022年度決算(連結)

Ⅱ 事業別動向

Ⅲ 2023年度業績見通し(連結)

Ⅳ 中期経営計画「OPEN 2024」のトピックス

✧ Appendix

Ⅰ.2022年度決算（連結） 概況

(百万円)	2021年度	2022年度		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	31,032	32,418	+1,386	+4.5%
営業利益	2,867	1,884	▲983	▲34.3%
営業利益率	9.2%	5.8%	―	―
経常利益	3,139	2,394	▲745	▲23.7%
当期純利益*1	2,082	1,647	▲435	▲20.9%

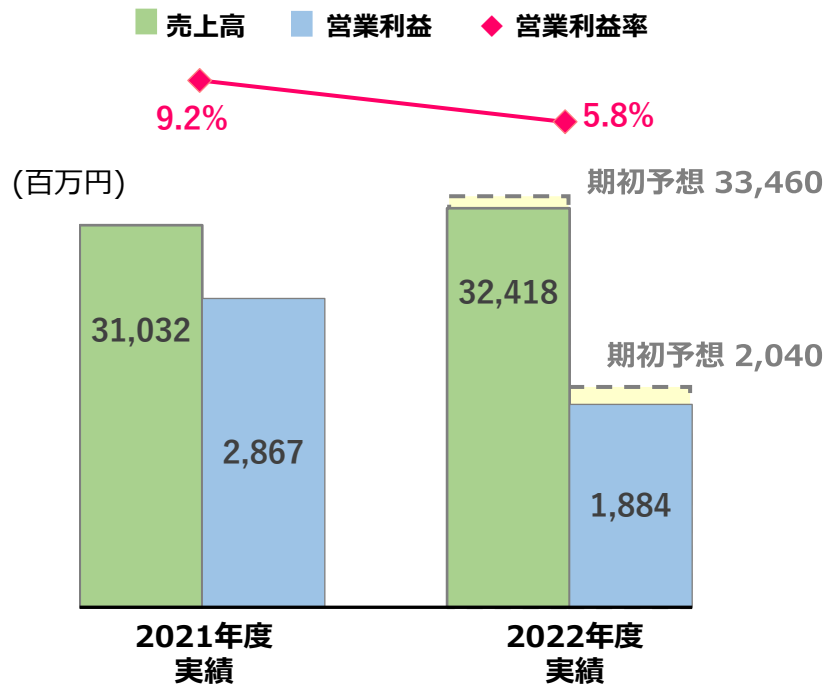
*1 親会社株主に帰属する当期純利益

売上高　：**製紙用薬品の拡販**および原料価格の高騰に対応した**製品価格への転嫁**により増収

営業利益：原料・エネルギー価格の高騰に伴う**売上原価の増加**により減益

経常利益：グループ内貸付金の評価替えなどによる**為替差益**3.1億円を含む

純利益：　非支配株主の減少に伴う当期純利益帰属分の増加などを含む



Ⅰ.2022年度決算（連結）営業利益増減分析

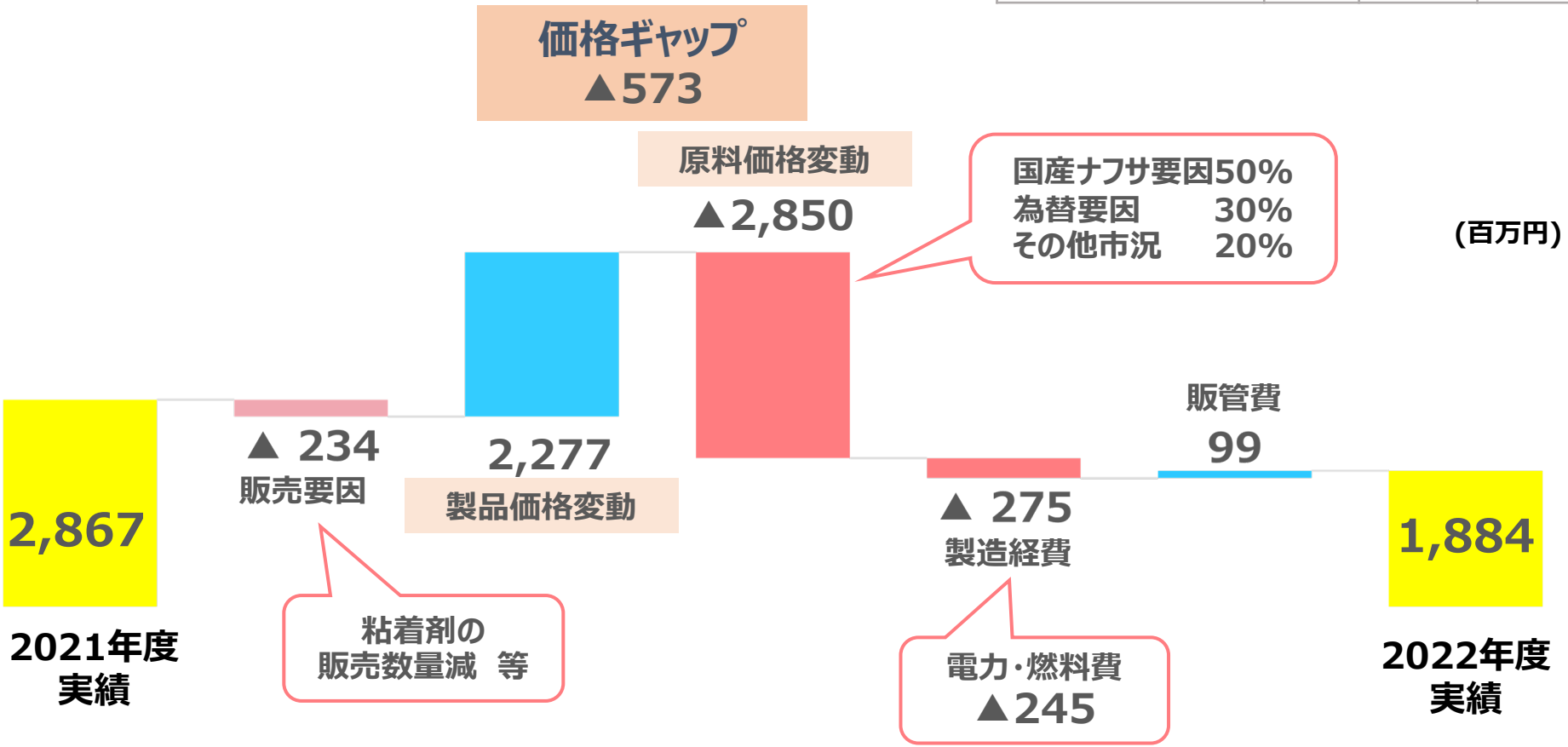
想定を超える原料価格高騰や製造経費増(電力・燃料費増)、**中国の景気減速に伴う粘着剤の販売数量減**などに対し、コストの**積極的な製品価格への転嫁**や**経費節減等による合理化**に努めたが、減益

営業利益

1,884百万円

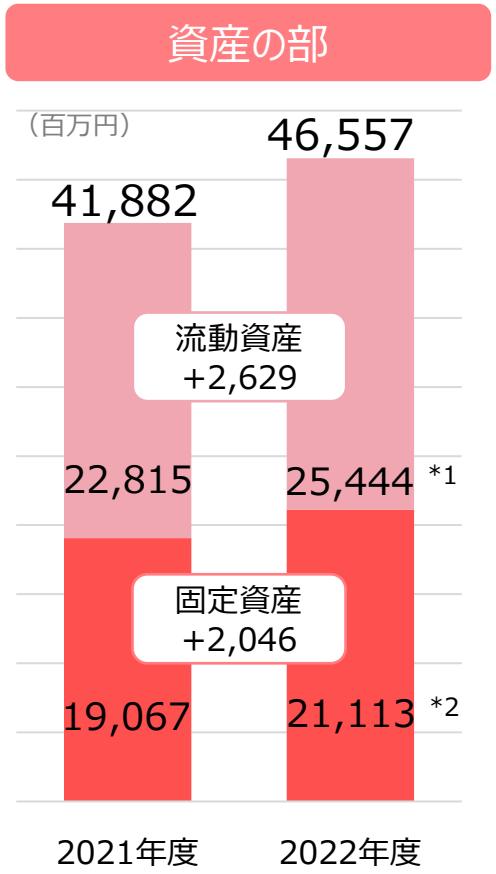
前年度実績比　▲983百万円（▲34.3%）

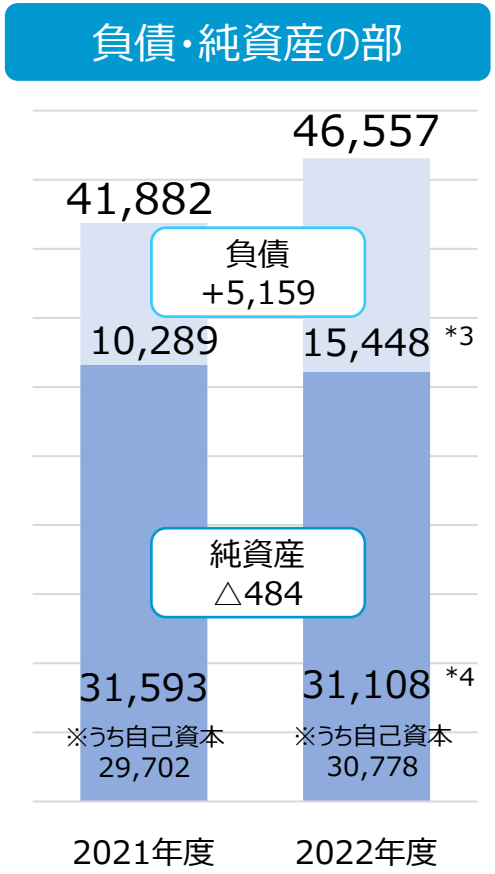
項目		2021年 実績	2022年 実績
為替レート	円/＄	110	132
国産ナフサ	万円/kL	4.2	7.3



Ⅰ.2022年度決算（連結）貸借対照表

財務健全性を維持しつつ、実質無借金経営から資本効率を意識した戦略的な財務経営へ転換





*1 主な変動	*2 主な変動	*3 主な変動	*4 主な変動
在庫 +1,128 現預金 +1,064	有形固定資産 +1,649	借入金 +4,781	非支配株主持分 △1,561

財務健全性

- **自己資本比率 66.1%**（▲4.8pt）
- **D/Eレシオ 0.20倍**（+0.15pt）

実質無借金経営からの転換

- **借入金 6,218百万円**（+4,781百万円）
- **現預金、貸付金 4,822百万円**（+382百万円）

Ⅰ.2022年度決算（連結）キャッシュ・フロー

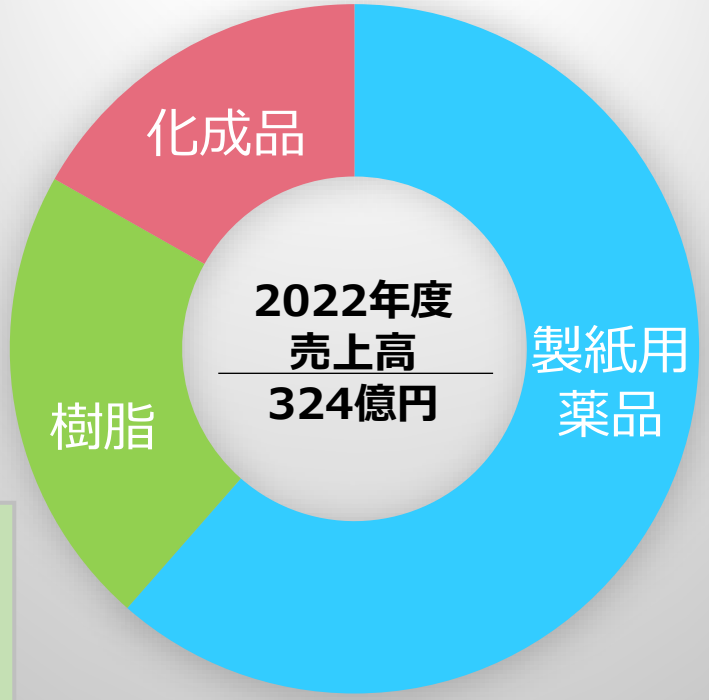
有形固定資産の取得(主にベトナム工場やKJケミカルズの成長投資)、
子会社(新綜工業)**株式追加取得** → 要した資金は**借入金**にて充当

(百万円)		2021年度（1-12月）	2022年度（1-12月）
営業活動によるCF	税金等調整前当期純利益	3,137	2,340
	減価償却費	1,292	1,434
	法人税等の支払額	▲636	▲895
	運転資本の増減額(▲は増加)	▲1,810	▲1,636
	その他	▲363	▲370
	計	**1,620**	**873**
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出	▲2,864	▲3,002
	短期貸付金の純増減額(▲は増加)	1,411	682
	定期預金の預入による支出	–	▲350
	その他	10	▲92
	計	**▲1,442**	**▲2,763**
財務活動によるCF	短期借入金の純増減額(▲は減少)	–	4,842
	連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	–	▲1,999
	配当金の支払額	▲485	▲485
	その他	▲209	▲107
	計	**▲694**	**2,249**
現金および現金等価物に関わる換算差額		293	353
現金および現金等価物の増減額		▲222	**713**
	現金および現金等価物の期首残高	2,985	2,762
	現金および現金等価物の期末残高	**2,762**	**3,476**

Ⅱ. 事業別動向 セグメント別業績サマリー

売上高　54億円
(17%)

機能性モノマー・
オリゴマー



売上高　200億円
(62%)

紙力増強剤
サイズ剤
家庭紙用薬品
製紙用補助薬品

売上高　68億円
(21%)

印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂
粘着剤

Ⅱ. 事業別動向 製紙用薬品事業

(百万円)	通期実績				通期見通し		
	2021年度	2022年度	増減	増減率	2023年度	増減	増減率
売上高	17,556	20,033	+2,477	+14.1%	21,850	+1,817	+9.1%
営業利益	1,193	828	▲365	▲30.6%	1,220	+392	+47.3%
営業利益率	6.8%	4.1%			5.6%		
減価償却費	673	807	+134	+20.0%	900	+93	+11.4%
EBITDA	1,867	1,635	▲232	▲12.4%	2,120	+485	+29.6%

2022年度実績

拡販および原料価格高騰に伴う製品値上げにより増収

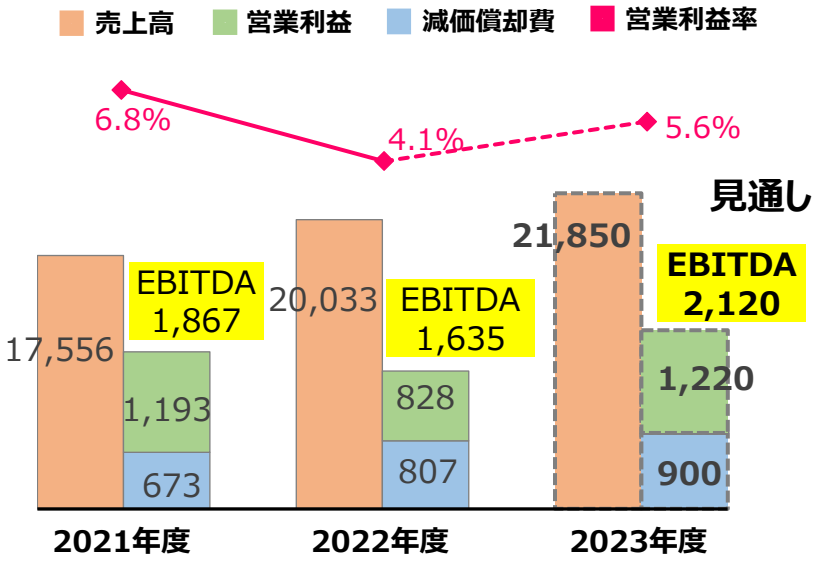
原料・エネルギー価格の急騰、およびベトナム工場稼働による償却／経費負担の増加により減益

2023年度見通し

成長地域への拡販に加えて、原料・エネルギー価格の製品価格への転嫁を進めることで、売上高・営業利益増を見込む

「Change」新しい取組み

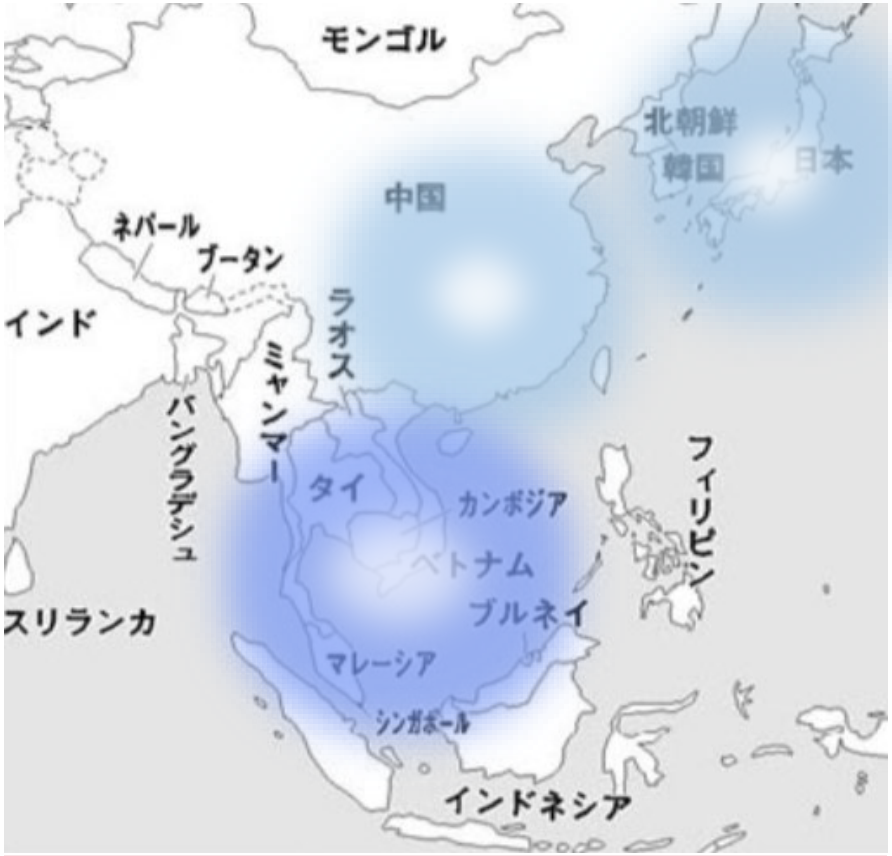
SEIKO PMC VIETNAMを活かした東南アジアへの拡販



Ⅱ. 事業別動向 製紙用薬品事業「Change」新しい取組み

SEIKO PMC VIETNAM

ベトナムでの新設工場（生産能力 3万トン/年）
の竣工式の様子（2022年11月17日）



今後、ベトナムや周辺地域の製紙産業の成長に、
既存の日本や中国（張家港）の生産拠点との
相乗効果をもって、積極的に貢献

Ⅱ. 事業別動向 樹脂事業

(百万円)	通期実績 2021年度	2022年度	増減	増減率	通期見通し 2023年度	増減	増減率
売上高	8,083	6,888	▲1,195	▲14.8%	7,610	+722	+10.5%
営業利益	803	353	▲450	▲56.0%	460	+107	+30.1%
営業利益率	9.9%	5.1%			6.0%		
減価償却費	355	359	+4	+1.2%	410	+51	+14.0%
EBITDA	1,158	713	▲445	▲38.4%	870	+157	+22.0%

2022年度実績

製品ポートフォリオ変革および製品価格の値上げに努めたが、中国の景気減速に伴う粘着剤の販売数量減が響き減収

粘着剤の販売数量の減少、および国内の原料価格高騰の影響が大きく、減益

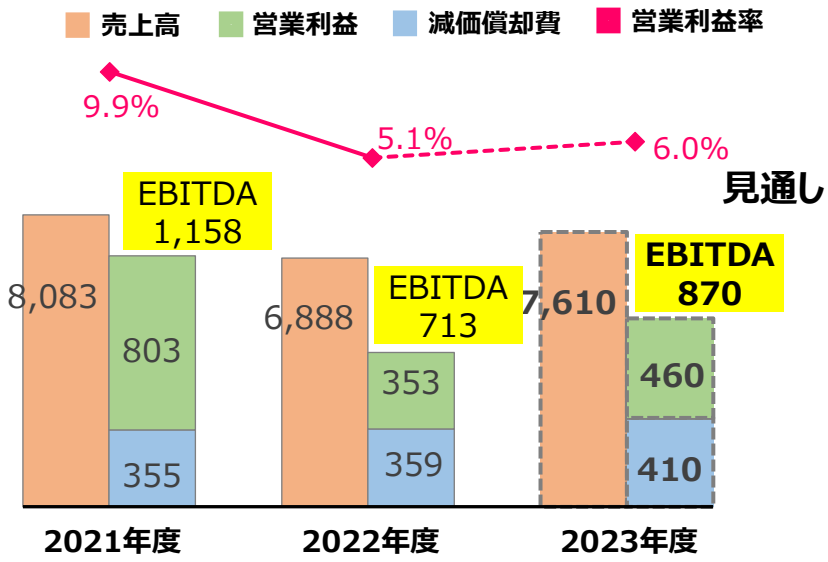
2023年度見通し

粘着剤の中国等での拡販、および国内製品の価格転嫁を進めることで、売上高・営業利益増を見込む

「Change」新しい取組み

パッケージ用インキ、紙用機能性コート剤に環境対応型水性樹脂を展開

UV硬化型粘着剤の拡販強化



Ⅱ. 事業別動向 樹脂事業「Change」新しい取組み

パッケージ用インキ、紙用機能性コート剤に環境対応型水性樹脂を展開

フィルム印刷の水性化

食品包装向けフィルム印刷インキの水性化に貢献

石化由来からバイオマス由来へ

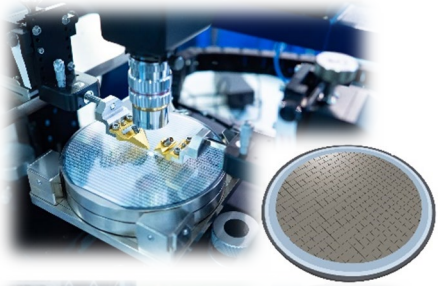
パッケージ向けインキ用水性バイオマス樹脂を市場投入

水性塗料の高機能化

建築・建材向け塗料用水性樹脂を市場投入

様々な製造現場で使用される粘着剤に「環境に優しいUV硬化型」を新たに展開

半導体製造



電子デバイス

EV部品
(Electric Vehicle)

IoT機器

- 従来型の溶剤型粘着剤に加えて、**環境に優しい「UV硬化型粘着剤」**の**使用効率(硬化速度)の大幅向上**に成功
- 幅広いお客様の多様な需要スタイルに細かく対応

Ⅱ. 事業別動向 化成品事業

(百万円)	通期実績 2021年度	通期実績 2022年度	通期実績 増減	通期実績 増減率	通期見通し 2023年度	通期見通し 増減	通期見通し 増減率
売上高	5,392	5,497	+105	+1.9%	5,820	+323	+5.9%
営業利益	1,312	1,043	▲269	▲20.5%	710	▲333	▲32.0%
営業利益率	24.3%	19.0%			12.2%		
減価償却費	235	218	▲17	▲7.3%	560	+342	+156.6%
EBITDA	1,547	1,261	▲286	▲18.5%	1,270	+9	+0.7%

2022年度実績

主力製品の輸出数量の増加、および原料価格上昇分の販売価格への転嫁に努め、若干の増収

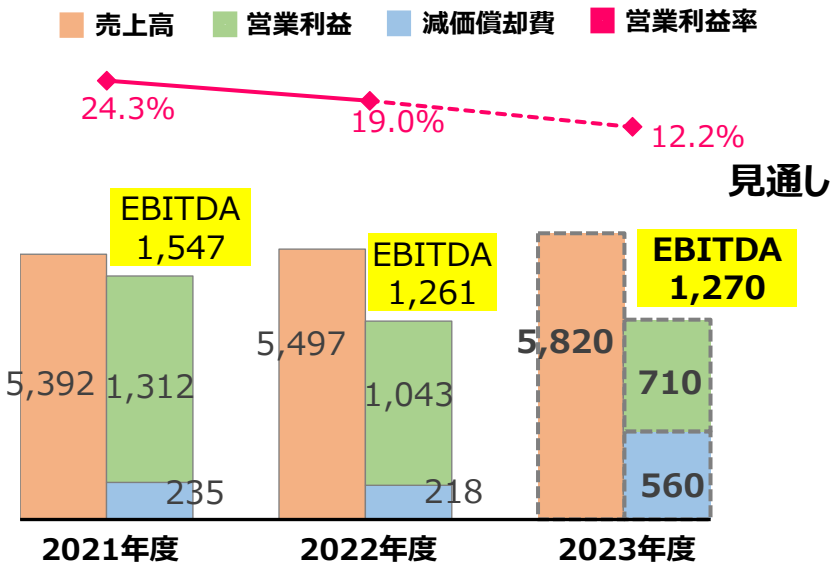
原料・エネルギー価格の高騰により減益

2023年度見通し

需要回復が期待される中国への拡販や製品の価格転嫁、生産性改善への投資による競争力向上等で増収を見込むも、減価償却費増により減益
（EBITDAは昨年同等以上）

「Change」新しい取組み

低毒性なアミド溶剤
「Kohshylvent®」の市場開拓



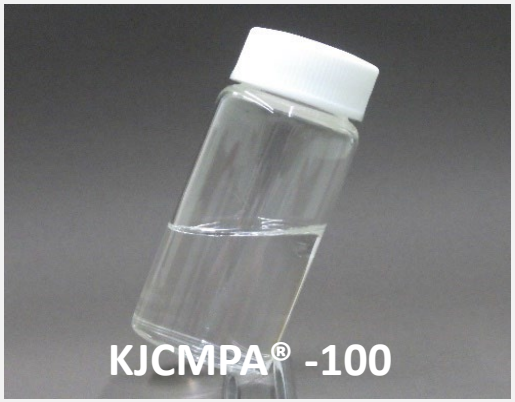
低毒性なアミド溶剤《Kohshylvent®》

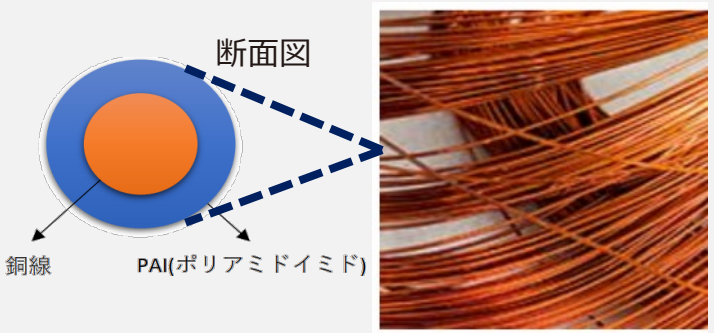
特徴

- **生殖毒性なし**（*生殖毒性を有する化学物質は各国の規制が強化されています）
- 従来の極性溶剤を代替可能な**高い溶解性**
- EV材料（右図）、半導体用コート剤、農薬原体の合成まで**幅広い分野で利用・検討中**

各種溶剤の溶解性をシミュレーションし、
最適な処方をお客様に提案する取組みも開始

ブランドネーム：Kohshylvent®

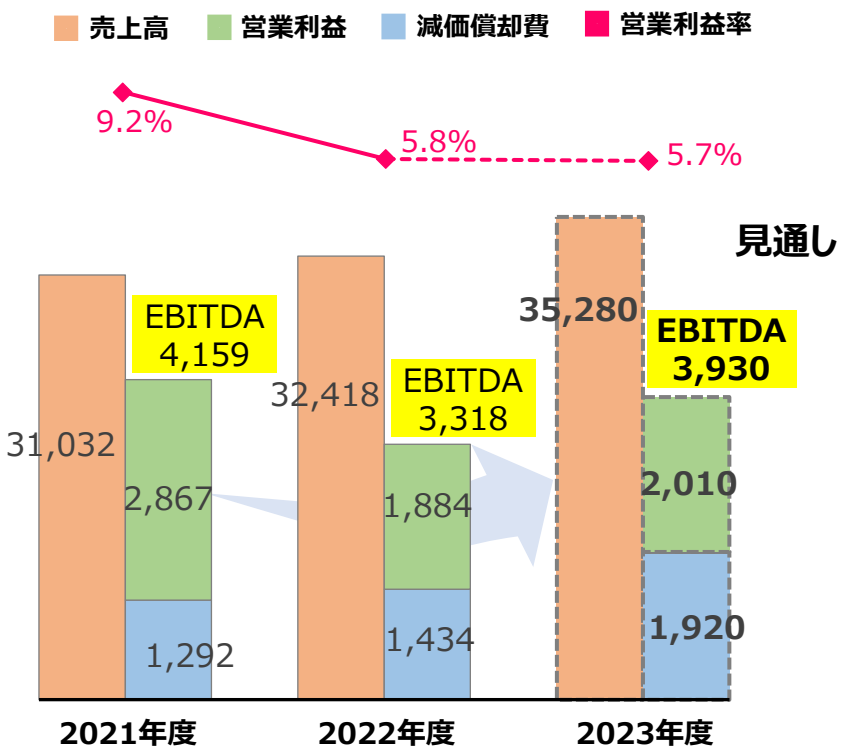




イメージ：EVモーター用のエナメル線
（耐熱・絶縁用樹脂のPAIを溶解して塗布）

Ⅲ.2023年度 通期業績見通し（連結）

（百万円）	2022年度	2023年度		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	32,418	35,280	+2,862	+8.8%
営業利益	1,884	2,010	+126	+6.7%
営業利益率	5.8%	5.7%	–	–
経常利益	2,394	2,160	▲234	▲9.8%
当期純利益	1,647	1,550	▲97	▲5.9%
減価償却費	1,434	1,920	+486	+33.9%
EBITDA	3,318	3,930	+612	+18.4%



売上高　：**中国、東南アジア**への積極的な**拡販**、**国内事業の製品価格の値上げ**に努め、増収を計画

営業利益：非ナフサ原料価格の高騰・高止まりの環境下、**拡販と値上げ**、**一層の合理化**により、**設備投資に伴う償却費の増加**を吸収しての増益を計画

EBITDA　：**2021年度に近い水準までの回復**を図る

Ⅲ.2023年度業績見通し（連結）営業利益増減分析

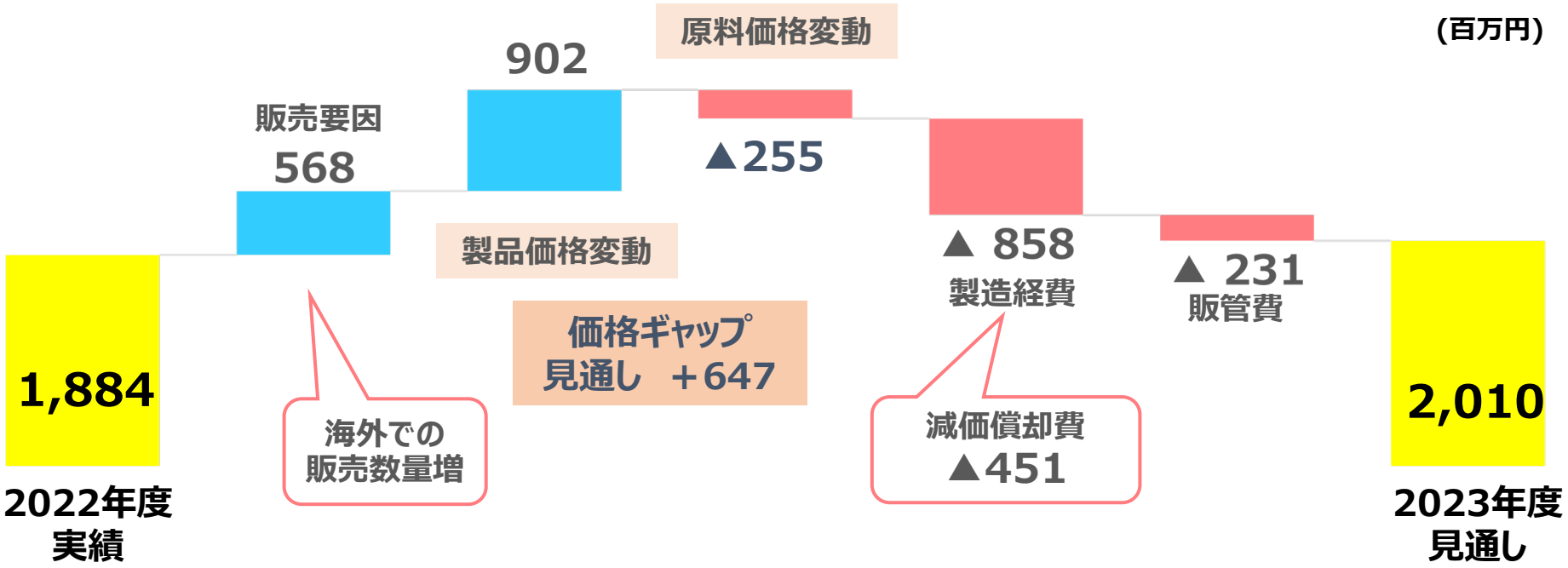
原料価格高騰の製品価格へのさらなる転嫁を進めるとともに、**ベトナム工場の本格稼働**を足掛かりとした**海外での製紙用薬品の販売数量の拡大、一層の合理化**により、**ベトナム工場やKJケミカルズの減価償却費の増加**が利益押し下げ要因とはなるものの、**前年を上回る営業利益**を計画

営業利益

2,010百万円

前年度実績比　+126百万円（+6.7%）

項目		2022年 実績	2023年 見通し
為替レート	円/＄	132	135
国産ナフサ	万円/kL	7.3	6.8



Ⅳ. 中期経営計画「OPEN 2024」基本方針とトピックス

OPEN 2024

Change ～VISION 2030達成に向けた土台作りのための変革と挑戦～

基本方針

ポートフォリオ変革

- **海外（特に東南アジア）への積極展開**
  新体制による展開加速で
  海外売上高比率40%以上へ
- **新事業の足場固め**
  ＣＮＦ、銀ﾅﾉﾜｲﾔ、その他開発品の事業化進展
- **国内事業基盤の強化**
  製品ポートフォリオ変革、生産体制再構築

ＥＳＧ経営の推進

- **ＧＨＧ排出量削減計画の実施：**
  エネルギー基盤強化
- **ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ委員会の設置と運営**
- **New Green Index：130以上**

人財育成・組織づくり

ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）

(億円)	2022年度 実績	2023年度 見通し	2024年度 中計目標
売上高	324	352	390
営業利益	18.8	20.1	37.5
EBITDA	33.1	39.3	57.5
海外売上高比率	29%	31%	40%以上
New Green Index*	108	118	130以上

＊ 当社環境戦略製品の売上指標(2021年の当該製品売上高を100として指数化)

【目標達成のため、取組みを加速させる】

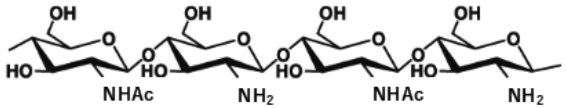
- 徹底した製品値上げによる収益改善
- 製紙用薬品事業:海外売上高拡大(ベトナム工場)
- 樹脂事業:製品ポートフォリオ変革、粘着剤拡販
- 化成品事業:大型投資効果(生産能力アップ、収益改善)
- 環境戦略製品のラインナップ拡充
- 新事業構築の足場固め(ナノファイバー事業強化)

Ⅳ.「OPEN 2024」： 新事業構築の足場固め

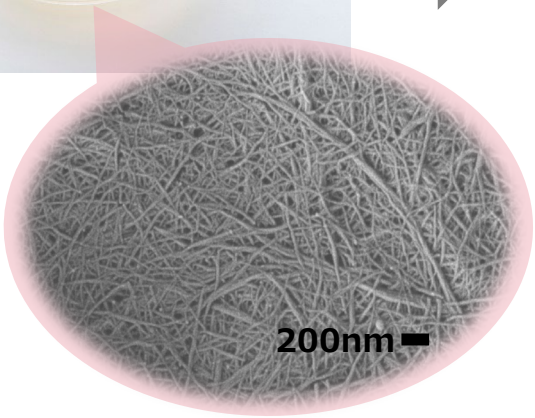
マリンナノファイバー社のグループ化

『カニ殻でみんなを笑顔に』

キチン：カニやエビ等の外皮を構成する多糖類



キチンナノファイバー



ヘルスケア・ペットケア商品

ポイント
- **ナノファイバー技術**をコアとした更なる事業ポートフォリオ拡大
- 当社グループ初の**コンシューマー向け製品**を扱う事業

Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス①

バイオフィルムコントロール剤（BFC剤）

- 新しいコンセプトのバイオフィルム（いわゆる「ぬめり」）対策薬品
- 細菌の生理機能に作用し、バイオフィルムの形成機構を阻害

➡バイオフィルムの「発生」を防ぐ

Topics

- **医療用機器の洗浄剤「BAKU」に採用**
- その他にも多数の分野で実用化に向け検討中

（抗菌コーティング剤、造水膜、冷却塔、金属加工油、家庭用洗剤　etc.）

BAKU
BIOFILM CONTROL

Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス②

セルロースナノファイバー　STARCEL®

実用化が進展

- CNF採用シューズが**1,000万足以上**販売
- **日用品への採用**が進展

コストダウンを推進

- 利用分野拡大に向けコストダウンを推進
- NEDO事業を通じて、物性を維持しつつコストを大幅に低減する製造プロセス開発
  →**従来の3～4倍の生産性**に目途

Ⅳ.「OPEN 2024」：環境戦略製品トピックス③

紙用機能性コート剤「SEIKOAT®」

～パッケージ市場にサステナブルなソリューションを提案～
中国・東南アジアを中心とした成長市場へ積極的に参入し、シェアを拡大

- 紙に塗工することで、各種包材に必要な耐水性、耐油性やヒートシール性等を付与
- プラスチックパッケージから、紙パッケージへの代替を可能に

SEIKOAT®（アクリル系）

- スチレンフリーの水性コーティング剤
- 耐水・耐油・ヒートシール剤、防湿コート剤等各種ラインナップ

SEIKOAT®（バイオマス系）

- 高バイオマス率、生分解性を有する環境配慮型水性コーティング剤
- 防湿コート剤、耐油コート剤をラインナップ

フッ素系耐油剤代替

SEIKOAT® T-EF201

- **高バイオマス、生分解性樹脂**
- **PFASフリーな新しい耐油コート剤**
- **紙に塗工しても紙特有の通気性を維持**

Ⅳ.「OPEN 2024」：ＥＳＧ経営の推進

気候変動問題への対応

GHG排出量
(Scope1/2)

前年比 13% 低減
(2022年度速報値)

目標：
2030年GHG50%削減［2013年対比］、
2050年カーボンニュートラル

2022年度の取組み

- サステナビリティ体制全般の整備
- エネルギー基盤強化（設備・反応工程省エネ化）
- 水島工場　太陽光発電設備導入
- グリーン電力購入比率UP　等

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

2023年度の取組み

- 他工場での太陽光発電設備導入
- グリーン電力購入比率の更なるUP
- TCFD提言に基づく情報開示　等

KJケミカルズ社がEcoVadis社のサステナビリティ調査でゴールド獲得

環境/労働と人権/倫理/
持続的な資材調達の
全ての分野で高評価

GOLD 2022 ecovadis Sustainability Rating

EcoVadis社は、160カ国以上の国で、90,000社以上の企業のサステナビリティを客観的に評価する信頼性の高いプラットフォームを提供。「ゴールド」評価は上位5%以内の企業が獲得

Ⅳ.「OPEN 2024」：企業価値向上に向けた取組み

プライム市場上場維持基準適合に向け、
適正な評価を市場から受けられるよう情報発信に注力

流通株式時価総額向上の取組み

- 「流通株式時価総額」
  ＝「時価総額」×「流通株式比率」
- 政策保有株式解消により、流通株式比率は
  37.5%(2021年6月末)⇒41.2%(2022年12月末) に

発信の迅速化・手段の多様化

- PR TIMES社のプレスリリース配信サービスを活用し、より多くの媒体にて記事化を実現
- 社外報「SEIKO PMC Plus」の継続発行
- 決算説明会の書き起こし
  （logmiファイナンスの継続利用）
- 当社記事のHP掲載

Twitterを通じたコミュニケーション

- 2022年8月運用開始
- 社員4名が中心となり運営
- 当社技術・情報を迅速・キャッチーに発信

当社へのご質問等は

e-mail：ir@seikopmc.co.jp

TEL ：03-6202-7331

までお問い合わせください。

＜予想に関する注意事項＞
・本資料では情報の提供を目的としており、勧誘行為を行うものではございません。
・業績見通しは現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、実際の売上高および利益は、記載している予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
・当社は業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
・本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負うものではございません。

Appendix

- 事業内容
- 当期の事業環境
- ROE・株主還元
- 設備投資および研究開発費

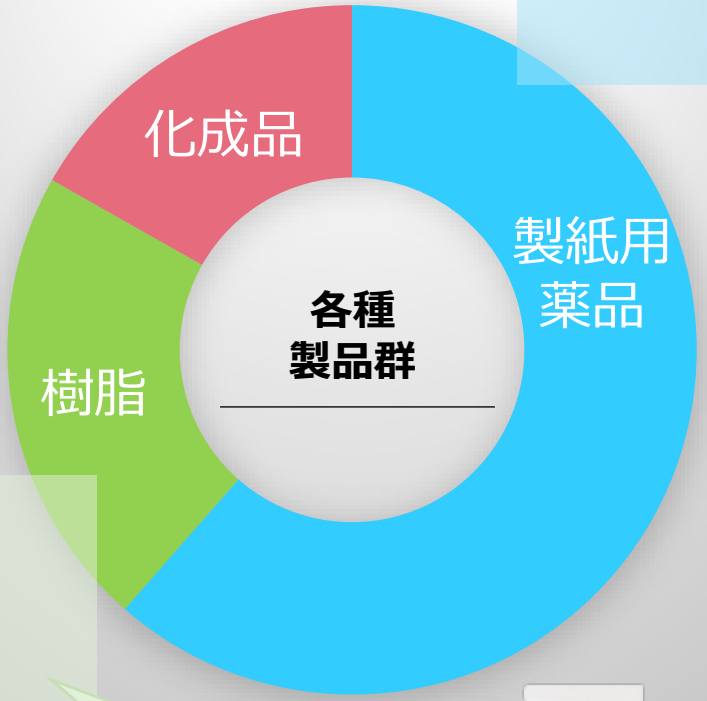
Appendix-Ⅰ.事業内容

各種機能性モノマー　Kj ケミカルズ株式会社

- UVコート剤・インキ
- 水系塗料、製紙用薬品
- 粘・接着剤
- 石油掘削用ポリマー
- 化粧品、電子材料 他

紙力増強剤/サイズ剤/家庭紙用薬品/製紙用補助薬品

- 紙：新聞用紙、印刷・情報用紙、家庭紙 他
- 板紙：段ボール原紙、紙器用紙 他



各種印刷インキ用樹脂 /記録材料用樹脂

- フレキソ・グラビア・オフセットインキ
- LBPプリンター用トナー　他

粘着剤

- 工業用両面テープ　他

セルロースナノファイバー

- ランニングシューズ素材　他

キチンナノファイバー

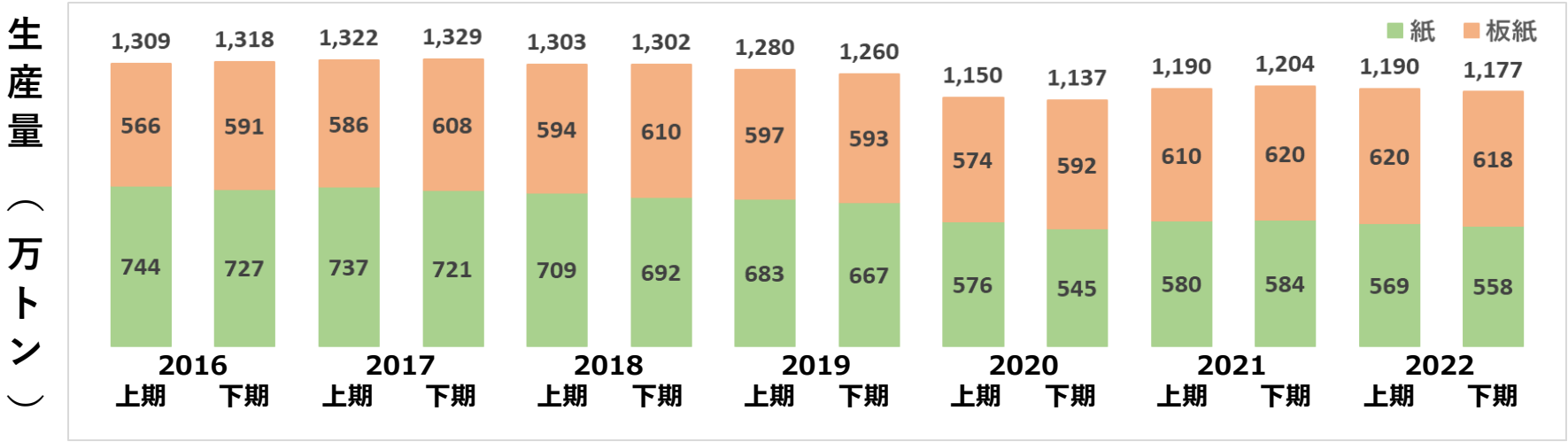
- ヘルスケア
- ペットケア用品

Marine Nano-fiber

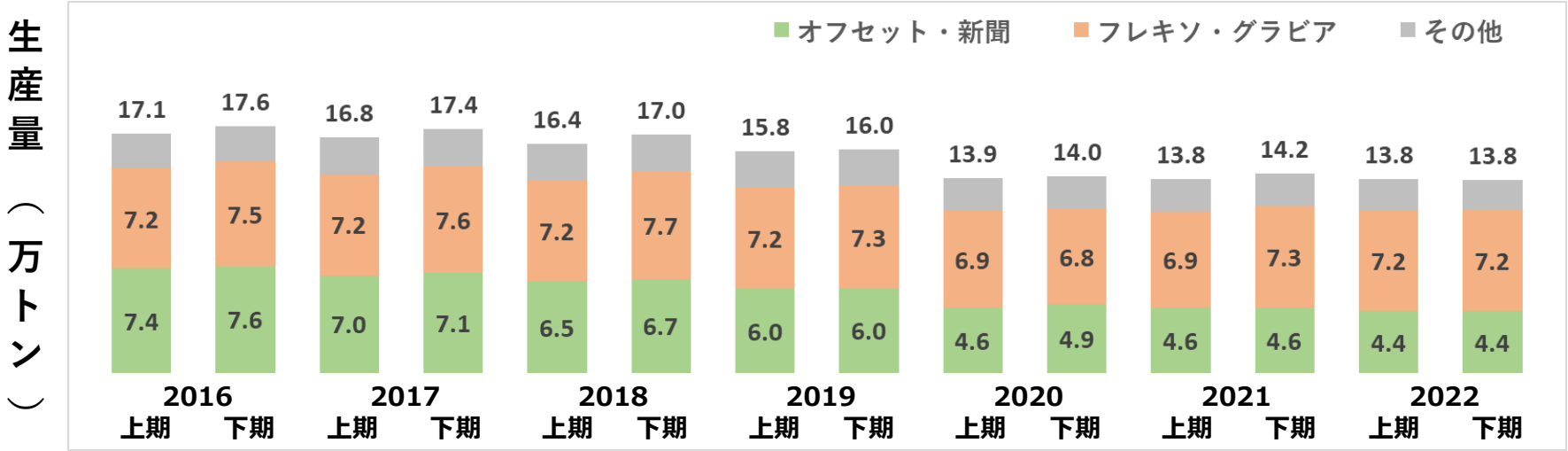
2023年
グループ化

Appendix-Ⅱ.当期の事業環境（国内:紙・板紙および印刷インキ生産量）

・2022年の国内紙・板紙生産量は2,366万トン(前年同期比▲1.1%)と減少
・紙生産量は1,127万トン(同▲3.1%)と減少傾向も、板紙生産量は1,238万トン(同+0.7%）と堅調

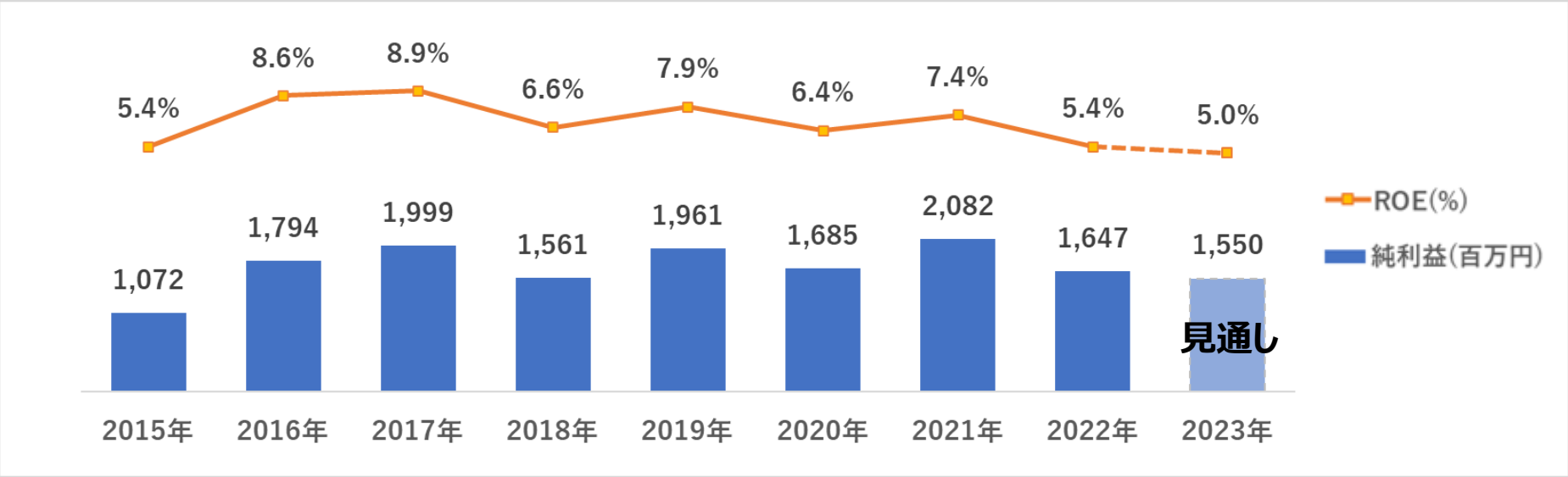


・2022年の国内の印刷インキ生産量は27.6万トン(前年同期比▲1.7%)と減少
・オフセット・新聞インキは8.8万トン(同▲4.6%)と減少続くも、フレキソ・グラビアは12.4万トン(同＋1.5%)と堅調

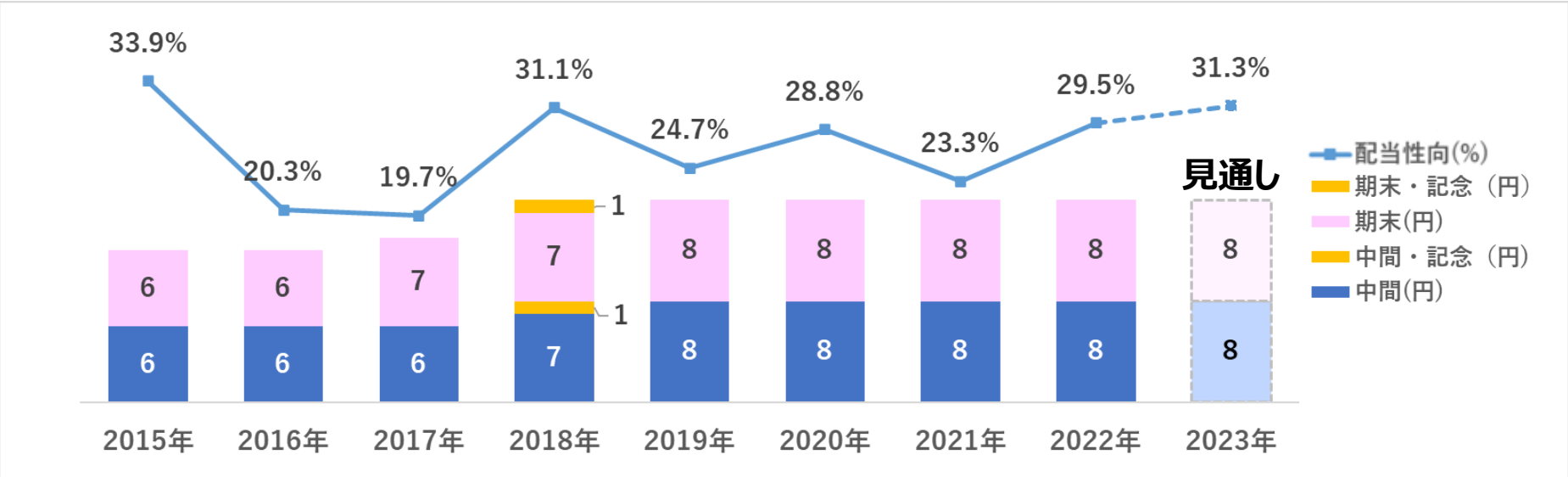


Appendix-Ⅲ. ROE・純利益・株主還元

ROE/純利益



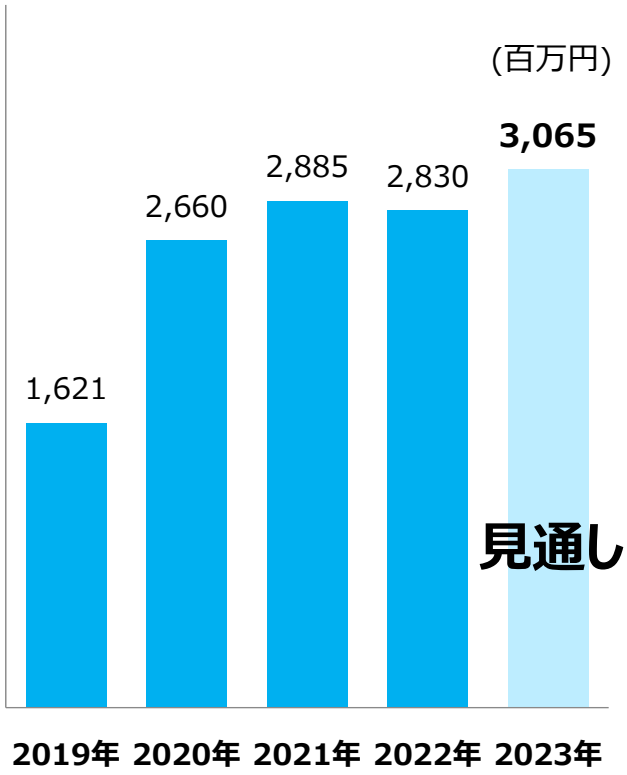
株主還元



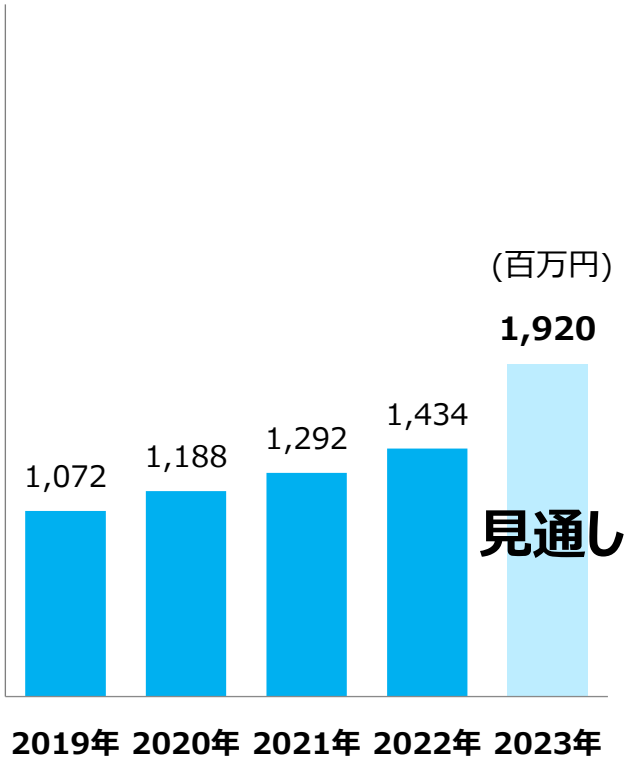
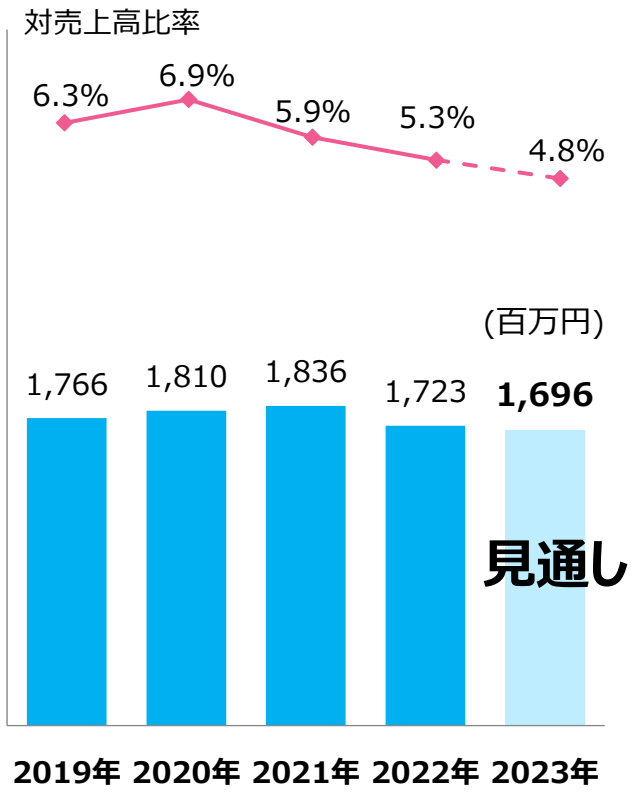
Appendix-Ⅳ. 設備投資および研究開発費

2023年計画
- 設備投資額は、KJケミカルズの投資を中心に国内外で31億円弱を計画
- 減価償却費として19億円強を見込む(製紙用薬品[ベトナム]+1.6億円、KJｹﾐｶﾙｽﾞ+3.2億円)
- 研究開発費は17億円弱を投じる

設備投資額



減価償却費



研究開発費